

都道府県別賞一等

一番の味方

岡山県 倉敷市立下津井中学校 三学年

西川 凜

二〇一九年六月、僕がまだ小三の頃、元気だった祖母が腹痛で倒れました。僕の母はシングルマザーなので、祖母に協力してもらいながら、僕と双子の弟を育ててくれていました。僕たちが幼い頃から、祖母の明るい声が、食卓に響くことは当たり前の日常になっていました。

祖母の腹痛の原因は、大腸に大きなガンができていて、腸閉塞を起こしていたことでした。ガンが腸を塞いでいるのに、腸が無理に内容物を通過させようとして、腸が破裂寸前になっていたそうです。運ばれた病院では手術ができないので、救急車で遠くの病院へすぐに転院すると連絡があり、母は付き添いのため家を留守にすることになりました。そのため、僕たち兄弟は伯母に預けられました。

翌朝、僕たちは伯母に連れられ、祖母の病院へ向かいました。とても大きなガンでしたが、手術は無事成功し、母が大泣きしながら、「凜くん、おばあちゃん、手術頑張ったよ。もう大丈夫。」

と、僕の手を持って、祖母の手を握らせてくれたことを今でも思い出します。まだ小三だった僕も、おばあちゃんが生きていて、本当にうれしくて、ほっとして涙がいっぱいあふれました。

祖母は、退院後も治療のための通院などもあり、仕事をしばらくの間、休んでいました。伯父が心配して、仕事の復帰を反対していたこともあり、思い切った仕事を長期間、休ませてもらうことに決めたそうです。

僕の家は、決して祖母や母が働かなくても暮らしていけるような裕福な家庭ではありません。祖父も他界しているので、祖母と母が懸命に働いて僕たちを育ててくれています。そんな中、祖母がガンで倒れ、長期間仕事を休んで、治療に専念できたのは、生命保険に加入していたからだそうです。入院や手術、ガン保険などに加入していたおかげで、入院や手術、その他の治療の費用を貯金を崩さず、まかなうことができたようです。

祖母は、言います。

「あの時、保険の見直しをして良かった。」

と。なんと、祖母はガンが見つかる二年程前に保険の見直しをしていたのです。

「お母さんに何かあったら、私も子どもたちも困るから。」

と、僕の母に言われ、どんな保険に入っているか、これからどんなことが心配

## 第63回中学生作文コンクール

か、当時の営業職員と祖母、そして母で相談し、今の保険に加入したそうです。見直し前は、亡くなった時の保険と、入院の保障のみで、早くに保険が満了し、一生涯、保障が続くものではなかったそうです。また、ガンなどの重い病気をすると、その後、新たに保険加入することは難しくなってしまうそうです。

「あの頃、見直ししておいたから、またガンが見つかったり、病気で入院したりしても、今の保険に助けてもらえる。」

と、祖母は言っています。生命保険に加入していなかったら、入院費や治療費、仕事を休んで収入が減少してしまった分の補填など、お金の心配で、希望する治療が受けられなかったり、しっかりと療養することができなかったかもしれません。祖母の体験を聞いたり、当時のことを思い出したりしてみても、今まで深く考えたことがなかった生命保険を身近に感じることができました。

生命保険とは、みんなの明るい未来を守るものだと思えます。元気になった祖母の笑顔を守ってくれてありがとう。大切な家族を守るため、子どもの将来のため、重い病気になったり介護が必要になった時のため、生命保険の必要性は様々です。どんな時も、一番の味方になってくれるはずだと、今の僕は思います。